



Contents

- 特集記事 2~5
群馬県委託事業：認知症サポーターステップアップ教材作成プロジェクト活動報告
作業療法士に必要なこと～「風街夕やけマルシェ」に参加してきました～
2025年群馬県作業療法士会新人症例発表会にて、優秀演題賞に選出されました
アルツハイマーデー記念講演に参加してきました
- お知らせ 5
- 議事録 7~12
- 施設紹介：医療法人 済恵会 須藤病院 13
- エッセイ 14~15
- 事務局からのお知らせ／編集後記 16

特集1

群馬県委託事業：認知症サポーターステップアップ教材 作成プロジェクト活動報告

Coffee House Sheep店主 中嶋有亮

皆様、認知症サポーターという言葉は聞いたことがありますか？

厚生労働省によると、認知症に対する正しい知識と理解を持ち、地域で認知症の人やその家族に対してできる範囲で手助けする「認知症サポーター」を全国で養成し、認知症高齢者等にやさしい地域づくりに取り組んでいます。¹⁾とのこと。

また、その実施団体である全国キャラバンメイト連絡協議会では、認知症サポーターは何か特別なことをする人ではありません。認知症について正しく理解し、偏見を持たず、認知症の人や家族を温かい目で見守る「応援者」です。その上で、自分のできる範囲でサポーターとして活動しています。認知症サポーター養成講座で得た知識を生かし、近所で気になることがあればさりげなく見守る、まちなかで困っている人がいたら手助けすることも立派な活動の一つです。²⁾と説明しています。

この活動は平成17年度(2005年)から行われていて、今年で丁度20周年と、とても長く続いている全国的な事業であります。そして昨年、我々が山口副会長及び事業局長によるトップ営業によって群馬県からの委託を頂き、「認知症サポーターステップアップ教材作成プロジェクト」が発足いたしました。

昨年から今年にかけて、地域作業療法推進部のグループの垣根を越えて、毎月、多いときは月2回、膝をつき合わせて意見を出し合ったり、zoom会議を行ったりして、各領域で働くOT達の知識や経験を集約し、教材を作成いたしました。会議では、群馬県の担当職員もお見えになり、アドバイスを受けながら進められました。

おかげさまで無事に納品を終え、今年の6月にお疲れ様会を開催いたしました。写真はその時の様子を写したものです。今回のプロジェクトを通して、県士会内の垣根を超えて結束が高まったように感じられ、やはり実際に顔を合わせて話し合うことの大切さを改めて実感しました。また、県の担当職員と繋がることができた事も、普段の仕事ではなかなか無いことだなと感じました。

最後に、この活動報告をしている奴は何者だ？OTなのか？と思われた方、安心して下さい。国家試験は通過しております。こんな人を会員として迎え入れてくれる、何なら役をつけてくれる群馬県作業療法士会はめっちゃめっちゃ懐が深い団体だなと思います。だからこそ、柔軟な発想で教材を作ることもできるのかもしれないですね！



教材のダウンロードはこちら

→<https://www.pref.gunma.jp/page/699706.html>

無料です！

群馬県HP健康福祉部 > 介護高齢課 > 認知症サポーターステップアップ講座用教材について

【引用】

1)厚生労働省 <https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/0000089508.html>

2)全国キャラバンメイト連絡協議会 <https://www.caravanmate.com/reportlist/report/Achievement2009>

特集2

作業療法士に必要なこと ～「風街夕やけマルシェ」に参加してきました～

群馬リハビリテーション病院 山口一幸

地域包括ケア推進グループには、活動目標として「作業療法士の地域への参画」というテーマがあります。今年度から新たな取り組みとして、作業療法士のという仕事を多くの方に知ってもらい、少しでも地域への参加を推進するために広報活動を行う事になりました。その一環として、6月27日前橋市中央通り商店街で行われた「風街夕やけマルシェ」というイベントに参加させていただきました。

この「風街夕やけマルシェ」は、金曜日の夕方に様々な飲食・飲酒のお店やワークショップのお店が軒を連ね、DJが奏でる音楽が聞ききながら思い思いに楽しめるイベントになっております。そんな中私たちは握力測定、立ち上がりテスト、自助具の紹介という他とは異彩を放っており、当日まで人が来るのかという一抹の不安を抱えておりました。



当日のイベント会場は多くの人で賑わっており、子供から高齢者まで様々な世代の方に来ていただきました。広報部からいただいたノベルティが足らなくなるほどの賑わいで、のべ230名を越える方たちに体験していただくことが出来ました。

また来場者の方に「作業療法士という仕事を知っていますか？」という街頭アンケートも実施し、【知っている】121名、【知らない】51名という結果が得られました。数字だけみれば認知度の高さを感じますが、知っていると答えた人の多くは「名前だけはね」という答えが多く、仕事内容や専門性を知っている人は少ないという現状を知ることが出来ました。薄々感じてはいましたが「作業療法士です」では伝わらないということです。「上肢機能」や「ADL」という言葉でも説明が付きませんでした。今回のイベントを通し、誰にでもどのような手段でも作業療法士を知らない人に、専門性や考え方を伝えられることが私たちにとって必要な事ではないかと感じました。

あくまでも一個人の意見ではありますが、どこかでそういった場面に出くわすことがあると思います。自分の中でも明確な答えを持っているわけではなく、個人として、職能団体としてどの様に表現していくかは課題であると思います。今回は考えるよりもまず行動してみたのですが、地域でいろんな人と関わり交流することはすごく楽しかったです。この経験や感覚が何よりも大きな収穫であったと思います。色々な経験の中で答えが見つかればと思い、今後も活動を継続していきたいと思いました。

特集3

2025年群馬県作業療法士会新人症例発表会にて、 優秀演題賞に選出されました。

新人症例発表会は、日頃抱えている疑問や問題点、成果経験などの意見交換の場となる事を期待するとともに、先輩や他施設の作業療法士とのディスカッションや助言から、解決の糸口を見つけるきっかけとなる事を目的としています。

新人症例発表会優秀演題賞は、若手の診療業務や研究への意欲向上、学会発表の促進などを目的として、新人症例発表会の演題から、特に優秀な演題の演者に授与されます。



優秀演題賞受賞者

雨甲斐美友	高齢者(super-old)に対しMTDLPを用いて施設退院を目指した症例	大誠会 内田病院
新井 李菜	更衣動作の獲得を目指し、急性期より残存機能の利用や動作方法を工夫して介入した症例	公益財団法人 脳血管研究所 美原記念病院
岡崎 里緒	症例の性格や心理面に考慮し、段階的な介入を行う事でトイレの自立度向上を目指した事例	一般社団法人榛名荘 榛名荘病院
坂元 萌実	麻痺手を「使う」ことへの動機付けや病棟での社会交流を促したことで、役割の再獲得に繋がった症例	公益財団法人 老年病研究所附属病院
田村 大地	声掛けによる意欲の維持・向上で、運転再開に貢献できた症例 ～家庭的・社会的役割の獲得を目指して～	公益社団法人 群馬リハビリテーション病院
吉田 楓	手順障害を有する患者へ役割の再獲得を目標に介入した事例	医療法人社団日高会 日高リハビリテーション病院

代表して新井李菜先生、田村大地先生にコメントを頂きましたので、紹介いたします。

新人症例発表を通して

公益財団法人脳血管研究所 美原記念病院 新井李菜

この度は、優秀演題賞という過大な評価を頂き、大変光栄に思っております。

発表の機会をいただいた関係者の皆様に、心よりお礼申し上げます。

今回の発表では、急性期における脳炎後の高次脳機能障害に対して、更衣動作の再獲得を目指して介入を行った症例を取り上げました。

限られた時間の中での評価や介入には難しさもありましたが、ADL支援の重要性と作業療法士の役割をあらためて実感したケースでした。

今回の受賞を励みに、今後も一つひとつの臨床経験を大切にしながら、患者さんにとって意味ある支援ができるよう努力を続けていきたいと思っております。この度は誠にありがとうございました。

公益社団法人 群馬リハビリテーション病院 田村大地

今回の受賞は僕一人では、なり得なかった受賞でした。症例となって頂いたケースとご家族様、ご指導くださった職場の先輩方、運営・設営頂いた県士会の方々がいらっしゃったからこそできた功績です。これからも、これで終わらず自己研鑽して行きたいと思っております。本当にありがとうございました。

文責 福利厚生部 池田真央

特集4

アルツハイマーデー記念講演に参加してきました

認知症支援推進グループ(ルル訪問看護ステーション) 笹谷朋弘

9月21日(日)前橋市の県社会福祉総合センターで認知症の人と家族の会群馬県支部主催「アルツハイマーデー記念講演」に運営側として参加してきました。

今年の記念講演のテーマは「認知症の人と家族を支える支援とは」です。

第Ⅰ部では、参加者の方に家族の会や「つどい」について知ってもらうために、家族の会の役割・活動紹介と、世話人による模擬つどいを実施しました。

第Ⅱ部では駒澤大学教授の荒井浩道先生による「ナラティブアプローチの立場から見る本当に必要な支援とは」の講演をいただき、家族の会の「つどい」の意味や価値について学術的な側面からわかりやすくご講演頂きました。

また今回のイベントではご協力頂いた各種団体の広報ブースが開かれ、群馬県作業療法士会も広報させて頂きました。

当日の夜には、認知症への理解を深めるための啓発イベントとして全国でのライトアップイベントをボタン形式でYouTubeライブ配信を行いました。因みに群馬は群馬県庁昭和庁舎でライトアップを行いました。動画もご視聴してみてください。(右記QRコードから)



最後に作業療法士協会ではアルツハイマー月間に合わせて、認知症に関する都道府県士会の活動報告が公開されています。群馬県士会も認知症支援推進グループとして活動報告を掲示していますので是非ご覧ください。



OTのリアルを聞こう！

作業療法士 × 高校生

Web交流会

参加費
無料

2025

1回目 10.18土 2回目 11.8土

13:30~14:30

匿名の参加もOK！

- 申し込み締め切り：各回前日まで
- 各回は同じ内容です
- Zoomを使用します

参加予約はこちら！

[https://forms.gle/
8QHtzuarmfMFxoZ
YA](https://forms.gle/8QHtzuarmfMFxoZYA)



GAOT 一般社団法人
群馬県作業療法士会
<https://gunma-ot.org/>

2025年度第2回 理事会：議事録

日時：2025年7月15日(火)19:00～21:00

会場：Zoomによるオンライン開催

参加者：新井、池田、石森、今村、小此木、勝野、木村、高坂、小林、設楽、柴田、都丸、長谷川、柳井、山浦、吉岡、李(50音)

【各部報告・審議事項】

1. 新井会長

1) 2025年度第1回協会長・都道府県士会会長会議報告

2) 新担当体制について

①局長人事 事務局長：長谷川副会長(再任)

学術局長：勝野副会長(新任)

事業局長：山口副会長(再任)

地域局長：柴田副会長(再任)

今期より、副局長を置く体制を敷きたい。設置理由は、局内での相談体制や業務分担等を整え、局長業務のサポート体制を整えるとともに、シームレスな代替わりを果たしていくためである。

②副局長人事 副事務局長：石森理事(再任)

副学術局長：李理事

副事業局長：高坂理事

副地域局長：山浦理事

ただし、定款第54条7「局及び部の組織・構成及び運営に関し必要な事項は、理事会の決議により別に定める。」を根拠として副局長を設置して運用にあたることとしたい。

審議結果：上記案で承認された。

また、再任の理事は留任することで承認された。

新任理事については、次回理事会にて審議していく。

3) 新規部署について

主旨としての「女性作業療法士の県士会への入会促進」「女性会員がもっと参加しやすい県士会づくり」「女性会員がもっと活躍していただける県士会づくり」「子育て世代にある会員が研修会や活動など県士会事業に参加参画しやすくするためにはどうするのか」「若手作業療法士がもっと県士会に魅力を感じて頂くにはどうすればいいのか」等々といったことを検討し、策を講じていけるための部署の構成をどうするのかを検討したい。

審議結果：勝野副会長を中心に池田理事、柳井理事、中嶋理事で検討していく。

4) 主任者会議のあり方や機能を見直していくための部署を地域局に設置したい。

5) 司法領域における作業療法を取り扱う部署の新設を審議いただきたい。

審議結果：窓口として部署が必要であること、今年度は事務局が担当するといった意見があかった。継続審議していく。

2. 教育部[担当：勝野・今村／報告者：教育部部長 今井卓也]

【報告事項】

ブロック長会議 メールで随時審議を実施。

6/18にリモート会議を実施。

1) 令和7年度 現職者共通研修・選択研修・基礎ポイント研修

①現職者共通研修

現職者共通研修 「作業療法生涯教育概論」

日時：令和7年7月7日 講師：松本OTR(沼田脳外)

上記内容で研修会を開催した。研修会運営では特に大きなトラブルはなし。

広報の期間が約1カ月と短くなってしまったため、今後は十分な広報の期間を確保する。

現職者共通研修 「作業療法における協業・後輩育成」

日時：令和7年10月29日 講師：都丸理事

上記内容で研修会を開催予定。

現職者共通研修 「事例検討」

日時：令和7年7月20日 会場：群馬医療福祉大学(対面開催)

新人症例発表会との合同開催。上記内容で研修会準備を進めている。

※その他の現職者共通研修も今年度の講師から内諾を得ており、今後準備を進めていく。

②現職者選択研修

現職者選択研修 「発達障害領域」

日時：令和7年11月23日 開催方法：オンライン研修

講師：吉岡理事、信澤先生(前橋市)、北爪先生(anomira)、十枝先生(群大)

上記内容で研修会準備を進めている。

③基礎ポイント研修

・「3Dプリンター×作業療法(子ども支援のための3D自助具共創プロジェクト)」

日時：令和7年8月7日 開催方法：オンライン研修

講師：田中先生(NPO法人そいる)、近藤先生(群馬パース大学)

上記内容で研修会準備を進めている。

・「作業療法士のためのシングルケースデザイン」

日時：令和7年10月9日、令和7年10月16日

開催方法：オンライン研修

講師：丁子雄希先生(新潟リハビリテーション大学)

上記内容で研修会準備を進めている。

2) 令和7年度 新人症例発表会

日時：令和7年7月20日 会場：群馬医療福祉大学(対面開催)

統括：須田ブロック長(館林厚生病院)、金高OTR(療育センターきぼう)

各ブロック担当：北中毛→前橋日赤病院(矢吹OTR)

西毛→群馬整肢療護園(吉田ブロック長)

東毛→館林厚生病院(須田ブロック長、糸井OTR)

発表者：46名(査読希望者1名)

上記内容で研修会を開催予定。

3) その他

①生涯教育制度推進担当者について

前任の柴田副会長から教育部の今井へ担当者を変更する。

今期の任期は令和7年4月1日～令和9年3月31日の予定。

OT協会への推薦状を県士会事務局へ依頼する。

【審議事項】 なし

3. 広報部[担当：都丸、部長 土岐]

【報告事項】

1) 公益事業グループ(グループ長：中澤)

①今年度の高校生を対象とした職業案内イベントを10月予定とし、ポスター等を作成中。その他広報活動についても部会にて検討予定。

2) ニュース編集グループ(グループ長：大脇)

①7月号発行準備中。10月号の記事を募集しています。9月25日締め切り予定。

記事の掲載依頼等ありましたら下記アドレスにお願いいたします。

送付先：介護老人保健施設うららく ニュース編集G 長 大脇 daxiezongya@gmail.com

3) 広報企画グループ(グループ長：金子)

公益事業Gと合同で活動実施。各部と情報を共有し必要な外部情報の収集とまとめを行う。

【審議事項】 なし

【意見】

新井会長より、小中学生やその親世代に作業療法士の魅力を感じていただくような働きかけを広報部に行っていただきたいとの意見があった。

4. 学術部 [担当:李・吉岡 部長:近藤]

【報告事項】

- 1) 学術研究グループ(佐藤グループ長)
①5月14日に、学術部特別企画「スライド・ポスター・プレゼンテーションの基本的なルール」の勉強会を開催した。
- 2) 学会支援グループ(秋山グループ長)
①第27回群馬県作業療法学会の講師公文書の発送について支援を行った。
- 3) 機関誌編集グループ(柳井グループ長)
①機関誌「ぐんま作業療法研究」投稿論文の募集を5月末に終了、現在査読中である。
②機関紙編集グループは1名体制であったため、新に2名機関紙編集グループに加入し、合計3名体制となった。

【審議事項】 なし

5. 運転と作業療法特設委員会 [担当:李]

【報告事項】 なし

【審議事項】 なし

6. 福祉用具委員会 [担当:石森]

【報告事項】

- 1) 福祉用具相談支援システムおよび生活行為工夫情報事業の県士会員登録状況
令和7年7月9日時点において、福祉用具相談支援システムの登録者数は77件、相談件数は5件。生活行為工夫情報事業は3件であった。
- 2) 福祉用具関連の研修依頼への対応について
①令和7年8月20日群馬県介護支援専門員協会にて研修を行う予定。講師は美原記念病院 石森卓矢。

【審議事項】 なし

7. 養成校連絡協議会 [担当:高坂、小林、木村]

【報告事項】

- 1) 養成校連絡協議会
①第1回養成校連絡協議会開催。
②2025.9.20(土)～21(日)臨床実習指導者講習会開催(太田医療技術専門学校)

【審議事項】 なし

【意見】

新井会長より、学生会員の増加に向けて様々な施策を検討してほしいとの意見があった。

8. 地域局 [担当:柴田・今村・小此木・山浦]

【報告事項】

- 1) 北中毛ブロック支部
①9月頃主任者会議を開催予定。
- 2) 東毛ブロック支部
①館林厚生の前任者と共にふれあいの会へ参加した。前任者との引継ぎ継続中(6月4日)。
②9月頃に主任者会議を開催予定。
- 3) 西毛ブロック支部
①地域包括フェスティバルの会議に参加した(7月3日)。

4) 全体 なし

【審議事項】 なし

9. 福利厚生部 [担当:小此木、部長 設楽]

【報告事項】

- 1) リレーフォーライフ
①イベントでは一般参加者へのヘルティを今年も予定している。
②一般参加者へ作業療法士についてのパンフレットも配布していく。

2) 新人症例発表会の表彰状について

①今年度より、外注へ表彰状作成を依頼しています。

3) 県士会についてのオリエンテーションについて

①教育部員の協力を得て、新人症例発表会の昼食休憩時に各会場のスクリーンにPower Pointのスライドショーとして参加者へ見てもらう予定になっています。

4) 福利厚生部主催企画について

①資産形成についての講演会を予定しています。日程等は今後、調整していきます。

【審議事項】 なし

【意見】

高坂理事より、リレーフォーライフについて学生向けの広報が必要であれば、養成校連絡協議会に連絡をいただきたいとの意見があった。

10. 訪問リハビリテーション学術大会in群馬[担当:小此木]

【報告事項】

参加者総数は683名となり、多くの方々にご来場いただいた。理事各位ならびにボランティアスタッフ、各養成校学生の皆様には多大なるご尽力を賜り、心より感謝申し上げます。収支に関しても赤字を生じることなく、約20万円を能登半島への寄付金として拠出できる運びとなった。

【審議事項】 なし

11. 地域作業療法推進部 [担当:高坂、吉岡]

【報告事項】

- 1) 地域包括ケア推進グループ(山口グループ長)
①6月16日に地域包括ケア推進グループの定例会議を開催した。
②6月19日に日本作業療法士協会主催の2025年度第1回地域支援事業会議に高坂理事、山浦理事、山口グループ長が参加した。
③6月27日に前橋市中央通り商店街で行われた風街夕やけマルシェに参加した。県士会ブースには230名を超える方が来場し、広報活動や運動指導など行い地域の方との交流を図ることができた。
④7月22日に関東信越ブロック会議が予定されており、高坂理事、山口グループ長が参加予定である。
⑤以下の通り、ナイトセミナーを開催予定である。
日時:10月16日 会場:オンライン
講師:前橋市社会福祉協議会職員
- 2) 認知症支援推進グループ(笹谷グループ長)
①5月22日付で「群馬県地域医療介護総合確保基金事業費補助金」の交付決定の通知があった。
②6月17日に第3回目認知症グループの会議を開催した。
③以下の通り、第1回「認知症ケア資質向上のための研修会」を予定している。
日時:10月18日(土)12:50～16:30 会場:たまごホール
講師:木村憲洋氏(高崎健康福祉大学)、山口怜生氏(認知症の人と家族の会副代表)、飯島教理氏(認知症ケア専門士・キャラバンメイト)
④5月25日、6月22日の「認知症の人と家族の会」のつどいに笹谷グループ長が参加した。
- 3) 精神科領域推進グループ(米原グループ長)
①6月4日に第2回グループ員会議を実施した。今年度の担当決めを行った。
②以下の通り、精神科領域推進グループ主催の研修会を予定している。
日時:第1回9月27日(土)、第2回1月10日(土)
会場:群馬パース大学
③6月27日に地域包括推進グループが参加した夕やけマルシェの様子を精神科グループのSNSを活用して広報協力を行った。
④以下の通り、ソーシャルバスケットボールキャラバン群馬ラウンドが開催される。広報について協力した。
日時:7月26日 13:30～16:00 会場:しんしん大渡体育館
⑤以下の通り、相談会・交流会を開催予定である。

日時:8月8日 19:00~21:00

会場:オンライン

⑥発達支援推進グループとのコラボ研修会を今年度も開催予定である為、同グループと企画会議を行った。

⑦9月6日にこころのふれあいフェスタへ県士会ブースが出席予定である為、広報部より当日の運営協力の依頼を受けた。

4) 発達支援推進グループ(小田グループ長)

①5月28日第1回定期勉強会「外部専門家派遣事業報告会・事業説明会」を実施した。

参加者70名(県士会会員29名、他県士会会員18名、OT学生1名、ST3名、教諭・校長14名、市議会議員2名、その他3名)であった。

②6月11日に研修企画会議を実施した。8月26日に、「前橋市の5歳児健診における作業療法士の関わりと実際」を講師に信澤直美氏(前橋市役所)を迎え実施する予定となった。広報を7月4日より開始している。

③6月16日に、12月定期勉強会(若手企画)について企画会議を行った。日々の臨床での疑問の相談を吉澤氏、千葉氏、金澤氏に話題提供いただき、12月7日または14日(日)14:00~16:00に実施していく事を決めた。

④6月20日群馬県特別支援学校機能強化事業 第2回専門アドバイザー研修(群馬県教育委員会)講師として小田グループ長が参加した。

⑤6月27日第2回定期勉強会「地域の子ども支援をつなぐOTの視点を学ぶ会」を実施した。(参加者県士会会員12名学生2名)話題提供:中嶋鮎氏(合同会社anomira)、柳井明子氏(群馬医療福祉大学)

⑥7月19日(土)に「教育領域への作業療法士参画に向けた意見交換会」に小田グループ長、六本木氏が参加予定となっている。

5) 部全体事項

地域作業療法推進部の部長が交代となり、後任は、認知症支援推進グループに所属されていた佐藤琢也氏(サービス付高齢者住宅虹の家)とする。

【審議事項】

自立支援型地域ケア個別会議の傍聴について(別添資料参照)前橋地域リハビリテーション広域支援センターより、作業療法士向けの自立支援型地域ケア個別会議の傍聴について案内があった。HP等への案内の掲載可否についてご審議いただきたい。

目的:自立支援型地域ケア個別会議への対応が可能な人材育成のため

対象:前橋市に勤務する作業療法士

内容:地域包括支援センターが開催する自立支援型地域ケア個別会議への参加・傍聴

審議結果:群馬県作業療法士会HPに掲載することで承認された。

12. 事務局 [担当:長谷川・石森]

【連絡事項】

1) メール配信方法の変更について

スケジュールを変更する。7月予定から8月を予定に変更。

*協会システムに登録してあるメールアドレスに対して配信を行う。

*メール配信停止を希望される方については、停止フォームから連絡をいただく。

2) 協会退会者に伴う県士会退会について

2025年4月7日時点での退会者人数:66名

県士会を退会していると認識されていない方もいるため、今後、個別の郵送にて通知する。

財務部と調整のうえ対処していく。

3) 「協会員=士会員」実現に向けた第1回事務局会議 報告

【協会側の結論】

従来考えてきた、会員管理のルール・会費一括徴収のシステム化による方策ではなく、会員管理・会費徴収の従来の運用は維持しつつ、できるところから徐々に始めて、「協会員=士会員」を最終的に目指すことが「協会員=士会員」を実現するための現

実路線であるという結論に至った。

【協会の今後の方策】

会員管理・会費徴収は、協会・士会それぞれで従来の運用を維持しつつ、現行システムの追加機能の検討や規定等の整備など、協会・士会がそれぞれにできるところから徐々に始めて、「協会員=士会員」を最終的に目指す。

【協議事項】

1) 前橋刑務所での作業療法士紹介に関して

①具体的な頻度、実施方法等の内容としては未定

②有償だが、金額は未定

③作業療法士会としては紹介をする形で関与し、作業療法士個人と契約を結んでもらう。

④OTへの要望:教育プログラムの実施に対する専門家としてのアドバイス プログラムのマネジメント協力

⑤今後の予定

まず見学の希望者を募り、前橋刑務所に見学ツアーを行う。

刑務所での刑務作業、教育プログラムの実際を担当刑務官から説明をしていただく。

現時点で参画できるか分からなくても良いので興味を持っている方や、前橋刑務所に行ってみたい方を対象とし人数は最低5人以上を集める予定。

【審議事項】

1) 休会制度の設立について

現状:休会制度なし。会費減免事業で対応。

2027年度の「協会員=士会員」の一元化がなくなったことにより今まで先送りしていた休会制度について再検討が必要。

現行の会費減免事業の継続の可否、または休会制度の設立のいずれかを審議する。

審議結果:現行事業を継続することで承認された。来年度再度審議していく。

40周年記念式典について 40周年記念式典実行委員会

【報告事項】

開催日:2026.7.11(土) 13:00~ 会場:メトロポリタン高崎

特別講演講師:日本作業療法士協会 会長 山本伸一氏

→懇親会にも出席される予定。

※8月頃に実行委員会開催予定。

※今後、功労賞等の選定を行う予定。

→福利厚生部の方にもご協力賜りたくお願い申し上げたい。

※懇親会の段取りなどはこれから準備を進めて行く。

【お願い】

当日の運営に理事の方のご協力が必要。

当日ご出席いただけますようご配慮いただきたい。

13. 財務部 [担当:高橋・小林]

【報告事項】

1) 各部会への予算の振込

2) 財務部業務の引継ぎ

【審議事項】なし

14. 第27回群馬県作業療法学会 [担当:木村]

【報告事項】

1) 一般演題募集の受付終了。14件の応募があった。

2) 今後も関係部署や実行委員と連絡を取りつつ、準備を進めていく予定。

【審議事項】

1) 学会当日の取材をJ-COMと上毛新聞社に依頼したいが、話を進めても良いか。

決定事項:J-COMと上毛新聞社との話を進めていくことで承認された。

その他連絡事項:なし

次回理事会予定 未定

2025年度第3回 理事会:議事録

日時: 2025年9月18日(木)19:00~21:20

会場: Zoomによるオンライン開催

参加者: 新井、池田、石森、今村、小此木、勝野、木村、高坂、小林、設楽、都丸、中嶋、長谷川、柳井、山浦、山口、吉岡、李 (50音)

【各部報告・審議事項】

1. 新井会長

報告事項などなし。

2. 教育部 [担当: 勝野・今村 / 報告者: 教育部部長 今井卓也]

【報告事項】

ブロック長会議 メールで随時審議を実施。

7/31、9/3にリモート会議を実施。

1) 令和7年度 現職者共通研修・選択研修・基礎ポイント研修

① 現職者共通研修

現職者共通研修 「事例検討」

日時: 令和7年7月20日 会場: 群馬医療福祉大学(対面開催)

新人症例発表会との合同開催。

上記内容で研修会を開催した。研修会運営では特に大きなトラブルはなし。

現職者共通研修 「事例報告と事例研究」

日時: 令和7年10月22日 講師: 山下OTR(心臓血管センター)

上記内容で研修会準備を進めていく。

現職者共通研修 「作業療法における協業・後輩育成」

日時: 令和7年10月29日 講師: 都丸理事

上記内容で研修会準備を進めていく。

現職者共通研修 「保健・医療・福祉と地域支援」

日時: 令和7年11月19日 講師: 山口部長

上記内容で研修会準備を進めていく。

現職者共通研修 「実践のための作業療法研究」

日時: 令和7年12月10日 講師: 近藤部長

上記内容で研修会準備を進めていく。

現職者共通研修 「作業療法の可能性」

日時: 令和8年1月28日 講師: 山口副会長

上記内容で研修会準備を進めていく。

※その他の現職者共通研修も今年度の講師から内諾を得ており、今後準備を進めていく。

② 現職者選択研修

現職者選択研修 「発達障害領域」

日時: 令和7年11月23日 開催方法: オンライン研修

講師: 吉岡理事、信澤先生(前橋市)、北爪先生(anomira)、十枝先生(群大)

上記内容で研修会準備を進めている。

③ 基礎ポイント研修

・「3Dプリンター×作業療法(子ども支援のための3D自助具共創プロジェクト)」

日時: 令和7年8月7日 開催方法: オンライン研修

講師: 田中先生(NPO法人そいる)、近藤先生(群馬パース大学)

上記内容で研修会を開催した。研修会運営では特に大きなトラブルはなし。

・「作業療法士のためのシングルケースデザイン」

日時: 令和7年10月9日、令和7年10月16日

開催方法: オンライン研修

講師: 丁子雄希先生(新潟リハビリテーション大学)

上記内容で研修会準備を進めている。

2) 令和7年度 新人症例発表会

日時: 令和7年7月20日

会場: 群馬医療福祉大学(対面開催)

統括: 須田ブロック長(館林厚生病院)、金高OTR(療育センターきぼう)

各ブロック担当: 北中毛→前橋日赤病院(矢吹OTR)

西毛→群馬整肢療護園(吉田ブロック長)

東毛→館林厚生病院(須田ブロック長、糸井OTR)

発表者: 46名 事例検討者: 21名

上記内容で研修会を開催した。研修会運営では特に大きなトラブルはなし。

次年度について: 例年通りの開催を予定しているが、以下の変更点がある。

新教育制度開始となり、旧教育制度の事例報告・事例検討の立ち位置である新人症例発表会は、2025・2026年度入会者が参加・発表をする場合、生涯教育制度のポイント対象外になる。

上記内容はOT協会からの決定事項である。

3) その他

① 生涯学習制度推進活動について

・生涯学修制度の移行方法について、県士会員へ説明の場を設けることを検討する。

前橋医療福祉専門学校の木村先生からも内諾を得ている。

・2024年度末までに入会した会員に登録OT読み替え制度の案内を配布。

【審議事項】 なし

3. 県士会を楽しくする部 [担当: 勝野・中嶋、柳井、池田]

【報告事項】

担当者会議: 7/26 sheepにて対面会議

適宜メールにて情報共有

【検討事項】

1) 部名: 県士会を楽しくする部 多世代企画サポートグループ

担当理事: 中嶋、柳井 副担当理事: 池田

2) 目的: 会員に県士会活動のメリットを感じてもらい、参加を促す。

興味はあるが県士会活動に参加に至らない会員に対して、県士会に参加しやすい職場作りを支援する。

3) 主な対象者

子育て世代 管理者層 学生

4) 方法

① 各部の活動を、広報部、事務局と連携し、県士会のInstagram、公式LINE、ニュース等で広報する。

② 現在活動されている部署に企画を提案、協働する。

具体案として

(1) 子育て世代向け企画: こどもの宿題をみんなでやる会 こども主体の遊び、絵の描き方指導等のできるOTが関わり、親であるOTが交流できる時間を作る。

・11月22日開催の地域包括ケアフェスティバルinたかきさきの紹介

(2) 管理者層向け企画: 管理者になった方へのマネジメント支援を進める。部下の育て方、チーム作り。まずは東毛ブロックの主任者会議で講演や交流会等を検討する。

部下に県士会参加を勧めていただく。

(3) 学生向け企画: 福利厚生部、養成校連絡協議会と連携して就職前相談会、実習前相談会で顔をつなぎ、県士会入会につなげる。

【審議事項】

1) 各部と連携して、SNS発信や県士会オフィシャルのLINEアカウントなどの整備を行ってもよろしいでしょうか?

審議結果: 県士会公式のSNSアカウントを取得することで決定した。

4. 広報部 [担当: 都丸 部長 土岐]

【報告事項】

1) 公益事業グループ(グループ長: 中澤)

・10月18日、11月8日に高校生を対象とした職業案内を実施予定。案内文、ポスターを作成し県内の高校に発送依頼済。

2) ニュース編集グループ(グループ長: 大脇)

・7月号の発行が終了し、現在10月号を発行準備中。

・記事の掲載依頼等ありましたら下記アドレスにお問い合わせいたします。

送付先: 藤岡訪問看護リハビリテーション

ニュース編集G長大脇 daxiezongya@gmail.com

3) 広報企画グループ(グループ長: 金子)

・公益事業Gと合同で活動実施。各部と情報を共有し必要な外部情報の収集とまとめを行う。

【審議事項】

- 1) 県士会他部よりイベント等でのノベルティグッズ使用の問い合わせをいただいている。他部でグッズを使用していただきやすいように県士会用のノベルティグッズ作成を行いたい。(来年度)
決定事項: 来年度作成に向けて広報部主導で検討することが決定した。
- 2) 県士会員の減少(853名)により、現在県士会ニュース発行部数(1100部)の変更(削減)を検討。会員宛と他団体等への送付分で1050部程度に変更するべきか。
決定事項: 1050部に変更することで決定した。

5. 学術部 [担当: 李・吉岡 部長: 近藤]

【報告事項】

- 1) 学術研究グループ(佐藤グループ長)
 - ①7月30日に、学術活動支援企画・第1回定期勉強会を開催した。
 - ②8月27日に、学術活動支援企画・第2回定期勉強会を開催した。
- 2) 学会支援グループ(秋山グループ長)
 - ①第27回群馬県作業療法学会について、一般演題查読や当日マニュアル作成の進捗状況について情報共有を行った。
- 3) 機関誌編集グループ(柳井グループ長)
 - ①機関誌「ぐんま作業療法研究」への投稿論文は7編あり、9月16日(水)にすべての査読が終了する予定。その後、出版に向けて校正作業を実施する。

【審議事項】 なし

6. 運転と作業療法特設委員会 [担当: 李]

【報告事項】 なし

【審議事項】 なし

7. 福祉用具委員会 [担当: 石森]

【報告事項】

- 1) 福祉用具相談支援システムおよび生活行為工夫情報事業の県士会員登録状況
令和7年9月15日時点において、福祉用具相談支援システムの登録者数は77件、相談件数は5件。生活行為工夫情報事業は3件であった。
- 2) 福祉用具関連の研修依頼への対応について
 - ①令和7年8月20日群馬県介護支援専門員協会にて研修を行った。講師は美原記念病院 石森卓史。参加者は17名。

【審議事項】

- 1) 「福祉用具相談支援システムに関するアンケート調査」依頼が日本作業療法士協会生活環境支援室よりきている。こちらのアンケートを実施してもよいか。(別途資料)
決定事項: アンケート調査を実施することで決定した。

8. 養成校連絡協議会 [担当: 高坂、小林、木村]

【報告事項】

- 1) 養成校連絡協議会
 - ①2025.9.20(土)～21(日)
臨床実習指導者講習会開催(太田医療技術専門学校)
参加者30名
 - ②第2回養成校連絡協議会開催。
県学会における学生ボランティア派遣 学生交流会の検討
学生会員運用の確認・報告

【審議事項】 なし

9. 地域局 [担当: 柴田・今村・小此木・山浦]

【報告事項】

- 1) 各所報告
 - 西毛: 地域包括ケアフェスティバルの準備委員会を7月23日に実施、進行中。
 - 北中毛: 大きな進捗なし。
 - 東毛: 9月26日に主任者会議をズームで実施予定。
- 2) 地域事業支援会議について
地域事業支援会議参加含めて地域包括ケアグループと連携して適正な業務を引き継ぐ準備をしていくことを共有。
上記に伴い、組織体制の強化として部員増加の必要性を確認していく。
二次医療圏担当者を部員として招く案、二次医療圏担当者の再

編成も視野に入れる(各ブロックの実情に沿って)。

【審議事項】 なし

10. 福利厚生部 [担当: 小此木, 部長 設楽]

【報告事項】

- 1) リレーフォーライフ
 - ①イベントにて、一般参加者へノベルティや作業療法士についてのパンフレットも配布していきます。チャリティーイベントで募金を募集しています。募金を集めて、納めていきます。
- 2) 群馬県作業療法学会の表彰について
 - ①優秀演題賞の候補者選定を県学会担当者と調整しています。
- 3) 県士会についてのオリエンテーションについて
 - ①教育部員の協力を得て、新人症例発表会の昼食休憩時にPower Pointで県士会の紹介を行いました。
- 4) 福利厚生部主催企画について
 - ①資産形成についての講演会を予定しています。日程等は今後、調整していきます。
- 5) 40周年記念式典功労賞にむけて
 - ①表彰規定を基に候補者の選定を行うなど、事務局と調整を進めていく。

【審議事項】 なし

11. 地域作業療法推進部 [担当: 高坂、吉岡]

【報告事項】

- 1) 地域包括ケア推進グループ(山口グループ長)
 - ①7月17日に地域グループ定例会議を開催した。
 - ②7月22日に関東信越ブロック会議に高坂理事、山口グループ長が参加した。
 - ③10月4日(土)、5日(日)に第2回地域支援事業会議が開催される。選任者として高坂理事、山浦理事、聴講者として今村理事、山口グループ長、実践者として笹谷認知症支援推進グループ長が参加予定である。
- 2) 認知症支援推進グループ(笹谷グループ長)
 - ①7月15日に第4回目認知症グループ会議を開催した。
 - ②第2回「認知症ケア資質向上のための研修会」準備状況について日時: 2026年2月7日(土)
講師: 小池岳大氏(平成日高クリニック)・野中和英氏(ケアプラセンター)・堀口布美子氏(老年病研究所附属病院)
会場: たまごホール
 - ③8月22日 第1回目研修会のチラシの封入作業を実施した。
 - ④7月27日、8月24日の「認知症の人と家族の会」のつどいに笹谷グループ長が参加した。
 - ⑤9月21日「認知症の人と家族の会」主催、記念シンポジウムに笹谷グループ長と眞藤氏が運営協力予定である。
 - ⑥10月29日 福井県作業療法士会と合同勉強会を行う予定である。
- 3) 精神科領域推進グループ(米原グループ長)
 - ①7月23日 第3回グループ会議を実施した。
 - ②7月26日 ソーシャルバスケットボールキャラバン群馬ラウンドにグループ員から2名参加した。
 - ③8月4日 発達支援推進グループとのコラボ研修担当者会議を実施した。
 - ④8月8日 相談会・交流会をZOOMにて開催した。参加者は11名であった。
 - ⑤9月6日 「群馬県こころのふれあいフェスタ」に広報部がブース出展し、運営にグループ員5名が協力した。作業療法士会ブースへの来場者は約200名であった。
 - ⑥研修会「地域支援者として必要な視点～当事者が地域生活で困ることなど～」をハイブリッド式で開催予定である。
日時: 9月27日(土) 13:00～15:00
講師: 柳 春海氏(居場所づくり研究会代表理事)、ピアサポーター様(群馬県精神障害者社会福祉協議会)である。
会場: 群馬パース大学
 - ⑦作業療法士のコラボレーション座談会「発達×精神 しくじりOT編」を対面形式で開催予定である。
日時: 10月25日(土)
話題提供者: 塩ノ谷直輝様(株式会社ワンライフ)
会場: 群馬医療福祉大学

⑧ 澁川市社会福祉協議会主催「つながるフェスティバル」にブース出展予定である。

日時:11月1日(土) 会場:子持ふれあい公園

4) 発達支援推進グループ

① 特別支援学校センター的機能強化事業 外部専門家配置事業の継続

(ア) 地域小中学校および幼稚園保育園への派遣

(イ) 講師依頼への対応

(ウ) ケース検討会議への出席

② 作業療法士の人材育成

(ア) 定期勉強会の開催

(イ) 外部専門家派遣事業での同伴研修の実施

(ウ) 「5歳児健診参画へ向けての人材育成研修会等」の開催

③ 7月23日19:30～発達グループ幹部会議実施し、今後のグループ運営、研修会予定について検討した。

参加者:吉岡、六本木、柳井、福山、中嶋、吉澤、矢吹(会計)

④ 8月26日19:00～ 第3回定期勉強会を行った。

⑤ 「前橋市の5歳児健診における作業療法士の関わりと実際」を実施した。

参加者:74名(県士会員 42名、他県士会員 30名、士会未入会OT 1名、保健師1名、学生1名)

⑥ 9月4日19:00～幹部・ブロック長合同会議を実施した。

参加者:吉岡、中嶋、柳井、田口、矢吹、六本木、吉澤

⑦ 第4回定期勉強会を予定している。

日時:12月14日(日) 14:00～16:00

内容:若手企画(仮)日々の臨床での疑問の相談

話題提供者:吉澤氏(内田病院)、千葉氏(群馬整形外科)、

金澤氏(群馬中央病院)

会場:群馬医療福祉大学リハビリテーション学部

⑧ 第5回定期勉強会を予定している。

日時:2026年1月25日(日) 13:30～16:30

内容:読み書きのつまづきにどう向き合うか～書字困難への支援的アプローチ

講師:高畑脩平氏(藍野大学 医医療保健学部 作業療法学科)

形式・会場:ハイブリッド・高崎市総合福祉センター会議室4(3F)

対象:作業療法士、学生、他職種(教諭・幼稚園教諭・保育士等)

参加費:1年目の協会員+群馬県作業療法士会員:無料

群馬県士会員:1000円、他士会員:2000円、OTS:無料

非会員作業療法士:9000円、他職種:2500円

⑨ 学童保育に向けた人材育成研修会を予定している。

日時:9月23日(火・祝) 13:30～

内容:「学童保育×作業療法士 ビギナー向け研修会」

講師:八重樫 貴之氏(株式会社リニエR 子ども未来事業本部)

副本部長 作業療法士)

上嶋 安奈氏 高崎学童保育指導員の会 会長(けやき学童クラブ)

江原 かおる 氏 高崎学童保育指導員の会 副会長(南八幡)

第二学童クラブ)

形式・会場:ハイブリッド・群馬パース大学

対象:作業療法士・学生 参加費:無料

⑩ 精神科グループ共催の座談会を予定している。

日時:10月25日(土) 18:00～(第1部)、20:00～(第2部) * 現地のみ

内容:発達×精神—くじりOT編—

講師:塩ノ谷 直輝氏(株式会社ソナライブ)

会場:群馬医療福祉大学、参加費:無料(第1部)

対象:作業療法士(会員・非会員問わず)・学生等

参加費:無料

⑪ 第2回関東小児OT交流会(幹事士会)に参加予定である。

日時:2026年1月10日(土) 14:00～(第1部)、18:00～(第2部)

会場:群馬パース大学 対象:作業療法士

参加費:無料(第1部)

【審議事項】

外部専門家派遣事業の同行研修と謝金について(別紙資料参照)

決定事項:提示した同行研修と謝金について承認された。今後、県士会の謝金規程の見直しを行っていく。

12. 事務局 [担当:長谷川・石森]

1. 前橋刑務所の見学と今後の流れについて[報告]

2. 第40回記念式典の準備状況の報告について[報告]

3. 2024年度会費未納に伴う退会者[報告]

4. メール配信システムについて[審議]

1) 前橋刑務所の見学と今後の流れ

① 見学報告

日時:2025年8月21日(木) 14:30～16:00

場所:前橋刑務所 参加者:11名

内容:・刑務所における刑務作業に関する説明

(法改正に伴い、受刑者の自立支援に向けた具体的な作業課題の提示等の必要性に関する説明を受けました)

・刑務所内刑務作業現場の見学

OTが参画する領域としては、通常の刑務作業(木工、印刷、金工)に携わることが困難な受刑者(高齢、知的発達障害、認知症)への作業活動

2) 群馬県作業療法士会創立40周年記念式典 準備状況[報告]

① 日時:2026年2026年7月11日(土)

14:30～受付開始

15:00～16:00(記念式典)

16:10～17:10(記念講演)

17:30～19:00(祝賀会・懇親会)

② 会場:メトロポリタン高崎

〒370-0849 群馬県高崎市八島町222番地

白鷺:収容人数90名 スクール形式で160名まで可能

③ 記念講演講師:日本作業療法士協会 会長 山本伸一氏

3) 現時点での2024年度会費未納における退会予定者[報告]

※2025年3月末までに入金できなかった会員

※督促状は12月に発送済み

※退会通知について発送を予定

【審議事項】

10月からのメール配信に関して

1) 上記運用の開始の可否について

決定事項:プラスチックメールを利用することで決定した。

2) 補正予算¥58,300の拠出について

決定事項:補正予算が承認された。

13. 財務部 [担当:高橋・小林]

【報告事項】

1) 2024年度県士会費未納:退会処理(47名)

【審議事項】

1) キャンセルポリシーの記載について

払い戻しの有無

◎振込手数料を引いた金額を払い戻す

資料等の代金の有無

決定事項:今後事務局内で検討していく。

14. 第27回群馬県作業療法学会 [担当:木村]

【報告事項】

1) 第2回実行委員会を行い、情報共有を行った。

2) 病院・施設説明会の案内文書の発送を県士会事務局に依頼した。

3) 現在、当日マニュアル作成と学会誌の作成を進めている。

4) 今後も学術部と連携しつつ、学会開催に向けて動いていく予定。

【審議事項】 なし

15. MTDLP推進委員会 [担当:池田]

【報告事項】

1) 7月6日(日)生活行為向上マネジメント基礎研修を実施した。

参加者19名であった。

2) 第27回群馬県作業療法学会 啓蒙活動を行う。

3) 認知症支援促進グループより、第2回「認知症ケア資質向上のための研修会」での講義の依頼を受けた。委員で対応する予定です。

4) 事例検討会をオンライン形式で2～3回実施予定。

【審議事項】 なし

その他連絡事項: 日本作業療法士協会の地域保健総合推進事業研修会に高坂理事が参加するが、今後担当部局を検討していきたい。

次回理事会予定 11月20日(木)19:00～

施設紹介

医療法人 済恵会 須藤病院

[地域の特性]

安中市は群馬県の西部に位置する人口約5万2千人の市で、城下町・宿場町として古い歴史を持ち、文化遺産や観光名所が点在しています。また、温泉マークや日本におけるマラソン大会の発祥の地ともいわれており、毎年5月に開催される『安政遠足 侍マラソン』では当院からも様々な仮装をして参加しています。

[施設概要]

当院は、1943年に地域密着型の病院として開設されました。現在は、一般病棟(48床)、回復期リハビリテーション病棟(41床)、療養病棟(31床)で構成されており、各専門職がチームとして連携し、急性期・回復期・緩和期と幅広いステージに対応しています。

[リハ部の紹介]

現在、PT31名、OT11名、ST3名、計45名のスタッフが在籍しています。対象疾患は、脳血管、整形外科、呼吸器、がんなど多岐にわたり365日体制でリハビリを提供しています。また、退院後も切れ目なくリハビリが継続できるよう外来リハビリや安中地域を中心に訪問リハビリの提供、さらに、当法人が運営する関連施設の介護老人保健施設めぐみ、介護付有料老人ホームななかまど、デイサービスさくらにもリハビリスタッフが勤務しているため多様なフィールドで専門性を発揮できる環境となっています。

[作業療法科の特色]

当院入院患者の半数以上は高齢者であり、リハビリをより楽しんでいただけるよう新たな取り組みとして、回復期リハビリテーション病棟ではOTを中心に様々な作業活動やレクリエーション、園芸療法などを取り入れています。患者様同士の交流を深めることはもちろん、楽しみながら運動することで、「できた!楽しかった!」という達成感から自信や自尊心を取り戻すきっかけ作りと心身共に前向きな気持ちでリハビリに取り組める環境づくりを大切にしています。また、作業活動やレクリエーションなどを通じ日常生活に必要な動作や役割を再獲得できるようサポートし患者様の社会復帰を後押ししています。

さらに、群馬県内でも有数の機器HAL®単関節やIVESなどの先進機器も積極的に導入しており、より効果的かつ多様なリハビリが提供できる環境を整えています。先進機器を活用することで、患者様一人ひとりの状態や目標に合わせた個別性の高い介入が可能となり、リハビリの質の向上にもつながっています。今後も地域密着型の病院として患者様が住み慣れた地域で安心して生活ができるよう支援し、地域に根ざしたリハビリが提供できるよう努めていきたいと思っております。



須藤病院リハビリ科よりFacebookやInstagramの投稿を行っていますので、もしお時間がありましたらご覧ください。

事務局の小窓 第6話

【2024年台風10号による被害について】

2024年台風10号は8月末、鹿児島県に上陸し、記録的豪雨と暴風で全国に甚大な被害をもたらし、死者8人、負傷128人、住宅被害2,379棟に及びました。

当時被害に遭われた皆様には改めてお見舞いを申し上げるとともに、尊い命を失われた方々のご冥福をお祈りいたします。

本コラムはその折の学会中止について振り返らせていただきますが、すべての皆様の安全な暮らしが末永く守られることを心より祈念するものであります。何卒ご容赦くださいますようお願い申し上げます。

『台風がもたらした何か』

「呼んでもねえのに来てしまう奴って、人でも動物でも迷惑極まりない存在ですが、なかでも、台風はその筆頭といえます。ちょうど一年前、第26回群馬県作業療法学会は、この台風によって中止を余儀なくされました。日本のはるか南の海洋で発生した台風10号は、その勢力を強めながら、日本へと進路を向けました。問題は学会当日、ちょうど関東のやや南を通過する可能性があったことです。

台風が南の沖に停滞していた頃、県士会の執行部では、学会を開催するかどうかの判断に迫られていました。災害対応委員会の関根委員長から当日の台風の予測ルートと共に学会開催のあり方について緊急のメール審議が行われました。学会規模を縮小して行うことや、開催時間をずらすことや、延期にすることなど様々に議論がされました。最終的に、群馬県桐生市近辺に、線状降水帯の発生予測と危険区域が示されたことが決定打となり中止の判断が下されることになりました。

これは県士会史上はじめての決断でした。

学会は開催までの準備におよそ1年を費やします。学会の基本的なテーマを決めて、会場を確保し学会講演の講師の招聘を決め、演題募集を行います。学術部の部員さんの協力を得て登録演題の査読とプログラムを決め、各ワークショップの企画運営を行います。そのほかに機器展示などの学会参加者に対する告知やホームページの運営、当日の運営スタッフ用のマニュアルの作成とかとやることは結構多い。っていうかすげえ多くて時々絶望的になるよね。

それに、発表者側からすれば、先輩から色々言われすぎてスライドをどう直したら良いか分からず、人知れず涙で枕を濡らしたり、上司の前で予演会とかゲロ吐きそうな地獄の時間を過ごしたり、心労が多いのが学会というものです。

たった1日のために、膨大なエネルギーを注ぎ、参加する人たちを迎え入れる準備をするわけですし、発表者は自分の成果を聞いてもらうために念入りに発表の練習をするわけですから、中止というのは誰にとっても辛い判断でした。



それでも、「スタッフを含め学会参加者の安全が脅かされる状況で開催することはできない。当日もしかしたら、影響がないかもしれないけれど、台風の影響を軽く考えるべきではない」これが執行部として下した結論となりました。

中止の判断のタイミングが適切であったかどうかや、通知方法に課題が残ったとか、様々な声があったかもしれない、それには改善が必要だけれど、少なくともあの時、県士会としてのガバナンスや危機管理が機能した瞬間だったように思います。

それで、この件は、なんとなく「学会中止になった。残念だった。台風だからしょうがなかった」みたいなことで、総括されてしまうのはあまりにも無念だという私の勝手な思いから、このコラムを書くに至っています。

大抵、中止になる前までは、なんとなく盛り上がり、議論も活発にあって、「非常事態だ!」「やべえ!」、とか言ってアドレナリンも出て、そこそこやる気もあるわけですけど、本当に厄介なのは、学会中止後の後処理にあるのではなからうか。

そもそも、“この世にたやすい仕事なんてものはない” わけだけれど、イベント後の、それも中止になった後の残務処理ほど、面倒でやる気の出ないものはありません。

学会中止後、関係者への説明、または謝罪（運営者側が謝ることでないけれど、すみませんといわずにいられない）、誌上発表を認めるのかどうかの確認作業、文字通り

紙くずになった様々なチラシをどうするかなど、学会を開催して無事終わらせた後以上に、中止の場合の残務処理は負担が大きいものです。

しかも、学会長をはじめ、学会開催に携わったスタッフが本来、受け取るはずだった労いや賞賛の言葉は届かなくなってしまったし、学会の打ち上げで仲間同士称え、言葉をお互いあうことすらも無くなってしまって、なんというか哀しすぎる。承認欲求の塊の私だったら絶叫してのたうち回ることでしょう。

文句の一つも言わずに我慢して、中止になった後の処理をして、また何事もなかったように日常に戻る。まったくもって、人生は不遇で「カミュ」の言葉を借りるなら「不条理です」²⁾。

こうして、人知れず、残務処理を終えられて少したった後、代替講演の企画が立案されました。中止したり、企画したり、今回の学会は異例尽くし。

調整に調整を重ねて翌年の6月に学会長講演と学会特別講演が行われることになったのでした。学会特別講演は平石先生の講演で、情熱的な90分でした。心に火がついている臨床家の話は凄く良い。やっぱ平石パイセンはすげえな。

石森学会長の講演は、OTとしての仕事の実績を丁寧にまとめられて、私、感動しました。だいたい、OTの仕事って多岐にわたりすぎて、時々意味わからなくなるし、実績をまとめるというのは言葉でいうほど簡単ではありません。どの尺度でデータを取って解析して説得力を持たせるかというのはOTとして共通の課題ではないかと思うのです。

学会特別講演も、学会長講演も本来もっと大勢の方に届くはずだったのに。惜しい。惜しすぎる。ホントに何してくれてんだコノヤロお！筋つてもんがあるだろお！まずい。私の中のアウトレイジ³⁾が暴れ出してしまふ。落ち着かなくて。

ともあれ、紆余曲折あった26回学会も代替講演を終えてようやく一区切りとなりました。学会長や実行委員長、または学術部の方々や運営スタッフなど、準備や運営、調整、後始末に携わってくださったすべての皆様には、改めて敬意の念を深くいたします。

そして、今年、11月30日に前橋医療福祉専門学校にて27回学会が予定されています。

今年こそは無事開催できますように。

【あとがき～台風がもたらした何か～】

さて、本編では触れていなかったのでここに記しておこうと思う。

学会中止になった当日、私はとある情報筋(宇宙人が複製体)からリークを受けていた。どうやら、石森学会長と今村実行委員長が、中止になった学会会場でデートをしているというのだ。表向きは、「中止連絡がうまくいかなくて会場に来てしまった人たちへの対応として会場に足を運んでいた」ということになっているわけだが、どうも怪しい。

私は、ふと思い出した。本当かどうかは知らないし、興味もないのだけれど、以前後輩から、恋におちる3つの条件(ing)について教わった事がある。すなわち、フィーリング、タイミング、ハプニング。

フィーリング⇒学会長と実行委員長のタッグを組むくらい相性は◎。

タイミング⇒学会中止後のさわやかな午前中に二人きり。

ハプニング⇒数年に1回の関東直撃の台風襲来。

これは...

完全に恋の方程式が成立してしまっているのでは？色々と踏んだり蹴つたりの学会運営の中で、唯一喜ばしいニュースである。

台風がもたらしたものは、二人の物語の始まりだったのかもしれない。

次回、いよいよ最終話。

「目標をセンターに入れてスイッチ」をお届けします。

コラムの感想をお待ちしております。⇒



参考資料

- 1) 津村 記久子:この世にたやすい仕事はない。
日本経済新聞出版 (2015/10/16)
→バーンアウトした主人公が、よくわからないさまざまな仕事に取り組むという労働小説です。どの仕事もちょっとモヤモヤしたりため息ついたりしながらなんとか生き抜いて行く姿が描かれています。こんな仕事ある?っていう面白さがあります。
- 2) アルベール・カミュ:シーシュポスの神話 .新潮文庫, 1964
→アルベール・カミュは「不条理は、人間の求める意味と、世界の沈黙との対立から生じる」と述べた。
人生は不条理だという認識こそが彼の思想の出発点。
- 3)北野武監督:アウトレイジ .ワーナーブラザーズ日本.2010
→私はイベントとかを運営する時、不思議とこの映画が観たくなります。私を知るギャング映画の最高峰。とにかく台詞回しが素敵。恥ずかしがらずに声に出して練習してみよう。

文責 事務局長 長谷川明

投稿大募集!!



ニュースでは、日頃感じている些細な疑問や
日常業務で工夫している点、こんな研修会に
参加した・・・などなど、皆様からの投稿を
募集しております。

どんなことでも構いませんので、
お気軽にお寄せ下さい。
お待ちしております!!



ニュース原稿の送付先

daxiezongya@gmail.com

県士会ホームページアドレス

<http://www.gunma-ot.org/>



編集後記

記事の依頼にご協力して頂いた先生方につきましては
ご多忙の所ありがとうございました。

ニュースの記事についてですが、どんな些細なこと
でもよいのでいつでも募集しています。

何かあれば下記アドレスまでご相談・ご連絡お待ちし
ています。

daxiezongya@gmail.com

○

群馬県作業療法士会ニュース

発行者 || 新井 健五

発行所 || 群馬県作業療法士会事務局 〒371-0024 前橋市紅雲町1丁目7番12号 TEL・FAX 027-224-4649

編集代表 || 大脇 宗雅 編集委員 || 関 仁紀、辻 千鶴子、白倉 研吾 印刷 || 星野印刷株式会社